

令和6年12月 定例教育委員会会議録

〈 開会 10時00分 〉

開 催 日	令和6年12月26日（木）10時00分～11時45分		
開 催 場 所	半田市役所 会議室403		
出 席 委 員	教 育 長 榊原雅晃 委 員 新美大 委 員 正村日登美	委 員 堀崎隆資 委 員 桂優子	
説 明 の た め 出席した職員	教 育 部 長 森田知幸 主任指導主事 木下稔章 給食センター所長 榊原秀夫 スポーツ課長 加藤計志 図 書 館 長 藤井寿芳	学校教育課長 内藤誠 指 導 主 事 高下隆史 生涯学習課長 青木美希 スポーツ課主幹 河合信二 博 物 館 長 関正樹	
事 務 局	学校教育課総務担当主査 羽根 広		
報 告 事 項	■報告事項 (1) 令和6年半田市議会12月定例会 ①一般質問答弁について ②令和6年度半田市一般会計補正予算について (2) 寄附、後援願等について (3) 児童生徒(園児)の交通事故・問題行動等について (4) 愛知・名古屋2026大会のボランティア募集について (5) 第17回愛知県市町村対抗駅伝競走大会結果について (6) 第36回新美南吉童話賞の審査結果について (7) 各種事業について ①「教育委員会イベントラリー（第4弾）」について ②「NGなしで答えます！～椎の木福祉会に聞く介護職のリアルな毎日～」の開催について ③「Valentine Concert」の開催について ④「第36回半田市公民館・区民館クラブ発表会」の開催について ⑤「親子でわらべうたコンサート」について ⑥「図書館で学ぶ健康講座」について ⑦博物館講座「苔テラリウムを作ろう」について ⑧博物館古文書講座「江戸時代の村と公文書」について ⑨令和6年度市内小中学校の展覧会の開催予定について ⑩令和6年度文化財消防訓練の実施について		

各課事務連絡	学校教育課
--------	-------

＜議事録＞

1. 前会の会議録の承認	(事務局) 11月定例会の会議録について概要説明 → 承認
2. 教育長報告	(教育長) 11月28日、第2回教育支援委員会を開催した。障がいのある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導を行うため、本人、保護者の意見を可能な限り尊重するとともに、専門的見地も加味しながら、就学先について教育委員会が決定する場である。今年度（令和7年4月入学・進学等）の対象者は148人で、昨年度の119人から増加している。就学先についての合意形成を図るため、現在も相談を継続している家庭もある。 12月1日、総合防災訓練が亀崎中学校で行われたが、亀崎中学校の生徒30人余りがボランティアで関わってくれていた。能登の震災の報道でも、避難所等で中学生が活躍していたと聞いており、こうして自主参加する中学生がいることは頼もしい。 7日、愛知駅伝が愛・地球博記念公園で開催された。半田市は途中棄権と残念な結果だったが、終わってからのミーティングでは選手たちが前向きな言葉を述べており感動的だった。次回以降に期待したい。 11日、12月半田市議会定例議会での一般質問について、部課長からの答弁後、包括的なことを私から答弁した。その中で、教育委員始め事務局職員一同も元気・笑顔・優しさいっぱい半田市の教育環境の向上に努めると述べたので、その気持ちでみなさんにもよろしくお願いします。 17日、第3回の生徒会サミットが乙川中学校で開かれた。後期の生徒会役員となり、メンバーが入れ替わっての初めての会議だったが、活発な話し合いがなされており、大変立派だった。 24日、幹部勉強会として小学校区コミュニティについて説明を受けた。コミュニティについては市民協働課の所管だが、学校の建替えに合わせて、地域の拠点となる施設を敷地内に設置する方針がある。これは、人口急減や高齢化の進展等により、比較的近い将来に自治区の運営が成り立たなくなることが予想されているため、自治区の持続可能な運営のためにコミュニティを小学校区単位にしてはどうかという将来構想。教育委員の皆様もご承知おき願いたい。
3. ■報告事項 1) 令和6年12月半田市議会定例会の報告	(教育部長) 公明党の麻生七海議員から、主題2「発達性読み書き障がいディスレクシアについて」、要旨1「小中学校におけるディスレクシアに対する支

①一般質問答弁	援について」、質問①「ディスレクシアに対する認識について伺う」と質問があった。 答弁としては、ディスレクシアは、近年、注目されている学習障がいの一つだが、未だ、学校現場において、その理解が十分行き届いている状況ではない。ディスレクシアの児童生徒を早期に発見し、適切な支援に繋げるためには、この障がいについて、現場の教職員や関係者のさらなる理解促進が必要であると認識していると説明した。 質問②「小中学校においてディスレクシアの疑いがある児童生徒は把握されているのか伺う」に対しては、現在、ディスレクシアと診断されている児童生徒が市内に1名いることを把握している。なお、読み書きの苦手な児童生徒はほかにも多数いるが、それがディスレクシアによるものか、その他の要因によるものかまでは把握していないと答弁した。 質問③「ディスレクシアの疑いのある児童生徒を早期発見するために、検査等が行われているのか伺う」に対しては、今年度、半田市では一部の学校において、読み書きの苦手な児童生徒の音読の流暢性や文字の書き取りの正確性などを評価する「読み書きスクリーニング検査」を試行的に実施し、その効果や運用方法などの検証を行っているところである。この検査は、もともとディスレクシアの特定を意図したものではなく、読み書きの苦手な児童生徒一人ひとりに合わせた個別指導を行う際の参考とするものだが、このスクリーニング検査と知能検査などを組み合わせることにより、ある程度、ディスレクシアの疑いのある児童生徒を抽出することが可能と考える。そのため、今後、他校への実施拡大を図っていくと答弁した。 質問④「ディスレクシアの児童生徒に対する半田市の学習支援について伺う」に対しては、ディスレクシアに限らず、学習障がい等がある児童生徒に対しては、一人ひとりの特性に応じた個別支援を行う必要があり、例えば、文章を読むことが苦手な場合には、教員が隣で指差ししながら一緒に音読したり、文字を書くことが苦手な場合には、筆順の分かるプリントを使って指導したりしている。タブレットやデジタル教科書の活用も有効で、文字の拡大機能や読み上げ機能を使ったり、授業の板書を撮影してタブレットに送ったり、様々な支援を実践していると答弁した。 質問⑤「保護者、教職員、全校児童生徒に対するディスレクシアについての講習会やチラシの配布といった取組みも必要だと思うが考えを伺う」に対しては、現在、保護者や全校児童生徒を対象にディスレクシアに関する講習会等を開催することは計画していない。ただし、半田市では、従来から、教職員が様々な教育問題等をテーマに自主勉強会を開催しており、この中で、昨年度から数回、ディスレクシアについて学ぶ機会を設け、理解促進に努めている。なお、愛知県内にある「ディスレクシア協会名古屋」という専門機関が各種講習会や相談会を開催しているため、当事者の児童生徒や保護者に対しては、引き続き、必要に応じてご紹介を行っていく。また、チラシの配布については、今後、国や県などからリーフレット等の提供があれば、積極的に活用し、ディスレクシアの理解促進に繋げていくと答弁した。
---------	--

創造みらい半田の山本裕介議員からは、主題1「アーバンスポーツにおける環境整備について」、要旨1「3か年実施計画にある、こどもの居場所文化・スポーツ事業並びにどこでもスポーツ推進事業について」、質問①「令和6年度にごん吉くん広場で実施された「3×3 HANDA SPRING MATCH」の事業結果を教えてください」と質問があり、令和6年5月26日に開催した3×3 HANDA SPRING MATCHは、参加者及び観戦者を含め300名以上の方が来場した。白熱する試合と会場を盛り上げるMCとDJ、そして空きスペースに特設されたバスケットコートにより、普段の試合では味わえない選手と観客、スタッフの距離の近さが、会場の一体感を生み出し、今までにないスポーツイベントとなったことで大いに盛り上がる中、開催することができた。当日、実施したアンケートでは、選手からは「普段と違う雰囲気の中、プレーできて楽しかった」、「歓声と音楽があることであきらめずに最後まで頑張ることができた」、また、選手の保護者からは、「初めての経験で普段見られない笑顔が見られ、子ども達も伸び伸びやっていたと思う」といった感想をいただいた。その後、大会の運営に協力いただいた半田市バスケットボール協会からは、自分たちでも大会を開催したいとの相談を受け、調整を進めた結果、「はんだふれあい産業まつり」での自主開催に繋がることとなった。このことは今回のイベントが場所に拘らないスポーツを推進する機会になったものと考えていると答弁した。

質問②「こどもの居場所文化・スポーツ事業での、小学校の特別教室や体育館、運動場以外で、どこまでの施設を想定しているか教えてください」に対しては、本事業は、「こどもの居場所づくり」を推進するため、普段の授業では学ぶことができない体験型の講座を小学校3年生から6年生を対象に平日の授業終了後、小学校の特別教室や体育館、運動場を活用し実施するものである。小学校のその他の施設としては、普通教室やプールが想定されるが、普通教室については、児童の私物等が置いてある場所であり、学校の管理運用上の観点等から利用することは予定していない。プールについても、すでに夏休み期間中は学校体育施設開放事業として活用し、夏季以外はプールの保守のため水を貯めておく必要があるため、「こどもの居場所文化・スポーツ事業」での利用は考えていないと答弁した。

質問③「どこでもスポーツ推進事業の「どこでも」とは、どのような状況を想定しているか」に対しては、半田市スポーツ推進計画の基本理念では、「だれでも」、「いつでも」、「どこでも」、「いつまでも」気軽にスポーツに親しむことができる「生涯スポーツ社会」の実現を図ることを掲げている。そこで、今回の「どこでもスポーツ推進事業」においては、スポーツ施設に限定するのではなく、場所を選ばない新たなスポーツの体験会によるスポーツ振興や、様々な施設の空きスペースを活用したスポーツイベントの開催による賑わい創出を目標としている。また、開催する際はより多くの市民に、スポーツを「する」、「見る」という機会を提供するために、既存のイベント等と複合的に開催する予定であると答弁した。

創造みらい半田の竹内功治議員からは、主題1「半田市の学校教育の取組みについて」、要旨1「新たに榊原教育長が就任しましたが、半田市の学校教育の課題をどのように捉えているか」、質問①「半田市のすべての教育活動のベースに位置付けている「キャリア教育」だが、現状の課題をどのように捉えているか」と質問があり、本市のキャリア教育は、子どもたちが、目的意識をもって、自分らしくより良く生きていくために、「課題解決に向けて行動する力」、「自分のよさを信じる力」、「人間関係を形成する力」、「夢を育む力」を身に付けていくことを目指し実践しているものである。年々、子どもたちが課題解決などに向けて主体的に行動する姿を目にする機会は増えているが、学習意欲を高め、主体的な行動を促す取組みのさらなる充実が課題であると捉えていると答弁した。

質問②「令和4年度からは始めている「幸せになるための教育」だが、現状の課題をどのように捉えているか」に対しては、「幸せになるための教育」は、昨年度、市制記念日の「10月1日」からの一週間で「幸せになるための教育強化週間」と定め、その名称を市内全校の子どもたちから募り「半田ハッピーウィーク」と命名したり、外部講師を招いて教職員向けの研修会を開催したり、先ずはみんなで「幸せ」というものを意識することから取り組んでいるものである。しかしながら、当然、このような取組みの浸透には時間を要す。「自分やみんなの幸せとは何か」などについて考え、自ら行動できる子どもの育成を目指し、この取組みをさらに盛り上げ、しっかり定着させていくことが課題であると捉えていると答弁した。

質問③「いじめや不登校等について、解決に向けて様々な取組みが進められている。現状の課題をどのように捉えているか」に対しては、いじめや不登校等の問題については、教育支援センターの運営や教育相談員の配置・派遣、各中学校への心の教室相談員の配置のほか、今年度からスクールソーシャルワーカー及びスクールカウンセラーを増員し、きめ細やかな対応を進めているところである。日頃から、子どもたちの心の変化や小さなサインなどを見逃すことのないよう、早期発見・早期対応に努めるとともに、効果的な支援方法を確立していくことなどが課題であると捉えていると答弁した。

質問④「現在、学校教育ではICTを活用した様々な取組みが進められている。現状の課題をどのように捉えているか」に対しては、半田市は、国の「GIGAスクール構想」に基づき、令和2年度に一人一台タブレットや電子黒板などを整備、ICT教育を推進してきた。各学校には、ICT支援員を巡回派遣して教職員をサポートするとともに、各種研修会の開催により教職員のスキルアップを図っており、今では、全ての小中学校でタブレット端末を活用した授業などが当たり前に行われている。このような状況の中、ICTを活用し、一人ひとりに合った「個別最適な学び」と様々な人と関わりながら進める「協働的な学び」を実現していくことが課題であると捉えていると答弁した。

質問⑤「現在、保護者や地域、学校の連携が進められている。現状の課題をどのように捉えているか」に対しては、半田市では、地域とともに

にある学校づくりを目指し、様々な面で保護者や地域の方々にご協力をいただいている。PTAや学校運営協議会による登下校中の見守りや学校花壇等の環境整備、学校行事の運営参画を始め、その他の地域団体等とも連携しながら、地域ごとに多彩な取組みが進められている。子どもたちが安心・安全に楽しく学校生活を送ることができるよう、学校活動を応援してくださる方をさらに増やし、連携体制の整備充実を図ることが課題であると捉えていると答弁した。

(堀崎委員)

ディスレクシアについて特別支援教育相談員の立場として補足する。疑いのある子を見ると、概ね診断がつくかどうか分かるが、医学的に判定できる機関が県内に1か所しかなく、受診するまでにとても時間がかかる。ディスレクシアを含めたLD(学習障がい)は早めに診断受けると、高校入試で配慮してもらえることもあるが、中3になってからでは間に合わない。LDへの理解が広がっていくといい。

(桂委員)

幸せ教育について、先日参加した講演会で気づきがあった。先生が、自身や子どもたちにとって幸せになることが大切だと腹に落ちてもらうことで、自由な発想でいろいろなことを進めていけると感じる。まずは先生方が自分たちの幸せってどういうことが深掘りできると、さらに幸せ教育も盛り上がると思う。

講演会では、日本が子どもの権利条約を批准してから最初に条例を制定した川崎市で、そこに深く関わっていた川崎市子ども夢パークのフリースペースの所長さんの話を聞いた。条例制定までに2年間で200回程度、子どもたちも含めて話し合いをしたとのこと。条例の制定について市民に報告する集会で、子どもがおとなに向けて出したメッセージがとても印象に残ったので紹介する。「まず、おとなが幸せにいてください。おとなが幸せじゃないのに子どもだけ幸せにはなれません。おとなが幸せでないと、子どもに虐待と体罰とかが起きます。条例に『子どもは愛情と理解をもって育まれる』とありますが、まず、学校や家庭、地域の中で、おとなが幸せでいてほしいのです。子どもはそういう中で、安心して生きることができます。」というもの。まずは先生方が幸せになることを実感し、それを子どもたちに伝えてほしい。

また、子ども夢パークでは、フリースペースとプレイパークが一体となったような子どもの居場所を作っている。このフリースペースの会員として通った子が2024年の時点で127名、そのうち約半数が障がいのある子だそう。また、18%が就学援助世帯。これらを聞いて、特性のある子の中に、学校に行きづらくなる子が多いのではないかと思った。彼らにとって、学校が居心地のいい場所になるにはどうしたらいいのか。具体的にどうするというアイデアがあるわけではなく、とても難

	しいことだと思うが、漠然と思うこととしては、いろいろな人が許容される場所になると、学校に行きづらいと思うことが緩和されるのではないかと思う。 (教育長) 川崎市のことは存じ上げなかったので、改めて調べてみたい。幸せ教育は、学校現場では2年目となるが、このことに限らず教育は成果が見えにくい。今後も様々な場面で念頭に置いて取り組んでいきたい。ここ数年は、市長との総合教育会議での議題にもなっており、今後も対話を続けていきたい。
②令和6年度半田市一般会計補正予算	(学校教育課長) 12月議会の教育委員会所管の補正予算については、前回11月の当委員会においてご説明したところだが、議会最終日の12月20日(金)に、追加議案として上程したものであるので報告する。なお、本件は、既に、同日、賛成多数により可決されたので、ご承知願いたい。 今回の補正は、全て、学校教育課の歳出・人件費を増額するもので、いずれも、人事院勧告に準拠した会計年度任用職員の報酬と期末勤勉手当の改正に伴うもの。 学校教育指導等事業費、学校生活支援事業、14,154千円は、学校生活支援員その他の会計年度職員について。共に学ぶ教育環境整備事業、1,203千円は、看護師及び介助員について。いじめ・不登校対策事業、3,424千円は、SSWその他について。学校地域協働支援員配置事業、488千円は、学校地域協働支援員について。小学校管理運営費、小学校管理運営事業、2,176千円、及び、中学校管理運営費、中学校管理運営事業、589千円は、ラーケーションの日校務支援員について、それぞれ増額するもの。 なお、教育部の正規職員、及び、学校教育課以外の課等の会計年度任用職員の人件費も、同様に増額されているが、いずれも企画部人事課による予算計上のため、当資料には記載していない。
2) 寄附、後援願等	(学校教育課長) ・ 寄附 1件 ・ 後援名義使用許可 10件
3) 児童生徒(園児)の交通事故・問題行動等	(指導主事) 令和6年11月23日～令和6年12月23日の交通事故・問題行動等について。 交通事故：3件 11月23日(土) 1件 11月28日(木) 1件 12月12日(木) 1件 問題行動(被害)等：3件

	11月27日(水) 1件 12月 4日(水) 1件 12月 5日(木) 1件 交通事故以外の事故：4件 11月29日(金) 1件 12月 3日(火) 1件 12月 4日(水) 1件 12月16日(月) 1件 学校等被害等：0件 不審者情報：5件 11月29日(金) 1件 12月 3日(火) 2件 12月 4日(水) 1件 12月14日(土) 1件
4) 愛知・名古屋 2026 大会のボランティア募集	(スポーツ課長) 2026年に愛知県・名古屋市を主に開催されるアジア・アジアパラ競技大会について、大会組織委員会と愛知県等から大会の運営等に係るボランティアの募集の広報の依頼があった。半田市は特に競技の開催会場にはなっていないが、愛知県が一丸となって取り組むため、広報の協力をするもの。 募集人員は4万人程度で、募集要件はチラシのとおり。応募期間は、10月21日から来年1月末まで。WEBでの応募になっており、市報新年号にも同様の記事を掲載している。知り合いの方で興味がある方がいらっしゃれば、ぜひお声がけをいただきたい。 役割は様々あり、東京オリンピックの小型版というようなイメージをしていただければいい。アジア圏内の各国から選手・スタッフ・応援の方々が愛知県に来られる。
5) 第17回愛知縣市町村対抗駅伝競走大会結果	(スポーツ課長) 結果としては、2区の選手にケガがあったため、半田市チームとしては棄権となってしまったが、3区で最後尾から再スタートし、以降は襷を繋いで走った。チームとしての成績は残らないので、選手たちは自分との戦いとなったが、ベストな成績を出してくれた。陸上競技は個人競技が多いが、駅伝はチームワークをもって臨むものだとして改めて感じた。今回の悔しさをバネにして来年も頑張ってもらいたい。
6) 第36回新美南吉童話賞の審査結果	(博物館長) 今回の応募総数は1,637編で、昨年1,569編より若干多く応募いただいた。 新美南吉童話賞は、自由創作部門と新美南吉オマージュ部門の2部門があり、大抵は自由創作部門から最優秀作品が出るのだが、今回は南吉の童話「でんでんむしのかなしみ」のオマージュとして創作された「どろぼうの悲しみ」という作品が最優秀賞に選ばれた。作者は東京の女

	性。 その他、各部門の審査結果は一覧表のとおりで、半田市からの入賞は3名。オマージュ部門の特別賞に青山中学校の3年生、自由創作部門の佳作の小学校高学年の部に成岩小学校の6年生、低学年の部に亀崎小学校の2年生が入賞している。 表彰式は、2月15日（土）13時30分からクラシティの市民交流センターホールで行う。 （新美委員） 昨年と比較して、小学校低学年の部の応募数の減少が著しいが、心当たりはあるか。 （博物館長） 昨年は、瀬戸SOLAN小学校から60点程度の応募があったが、今年は当該校からの応募がなかった分、大きく減少したと考える。
7) 各種事業について ①「教育委員会イベントラリー（第4弾）」	（学校教育課長） 恒例の教育委員会イベントラリーについて、今年度はこれが最終となる。教育部各課の主催するイベントについて、イベントごとのスタンプを3つ集めるとタオル、5つ集めるとレアグッズがもらえる。 対象イベントは、HPにも掲載している。
②「NG なしで答えます！～椎の木福祉会に聞く介護職のリアルな毎日～」 ③「Valentine Concert」の開催 ④「第36回半田市公民館・区民館クラブ発表会」の開催	（生涯学習課長） ②の講座は、昨年度も開催し、第2弾として開催する。参加者は多くなかったが、非常に好評だったので、椎の木福祉会の協力のもと、少し内容を変えて開催する。知多半島内の高校にも案内を配布した。昨年度は、知多市の高校生が参加してくれた。介護職に就きたいという夢があったそうで、先生から紹介されたとのことで参加してくれた。 ③は、セントラル愛知交響楽団によるコンサート。開催日がバレンタインデーに近いので、「愛」をテーマに、愛に関係するクラシック、聞きなじみのある曲の2部構成で開催する。また、ただ聴いてもらうだけでなく、ホワイエでバレンタインマーケットを開催する。半田市のふるさと納税もしくは、知多半島農業マルシェ「にこもぐ」の登録事業者のうち、9事業者が参加し、開演前と終演後に店を開く。コンサートの前後にコーヒーを飲むなど楽しんでいただきたい。 ④は、2月16日に開催するもので、36回目を迎える。踊り、和太鼓、コーラス、ウクレレ等の演目がある。
⑤「親子でわらべうたコンサート」 ⑥「図書館で学ぶ健康講	（図書館長） ⑤は1月11日に開催する。親子で楽しんでいただくもので、開催時間等はチラシに記載のとおり。 ⑥は、令和元年12月にスギ薬局と地域包括ケアの推進に係る連携協定を結んだ中で実施するもの。協定結んでからコロナ禍になり、なかなか実施できなかったが、昨年度に初めて実施し好評だった。今年は、国

座」	民病とも言われている高血圧の原因である「塩の摂りすぎ」に焦点を当て、「減塩をやってみよう」として関心の高いテーマで講座を実施する。
⑦ 博物館講座 「苔テラリウムを作ろう」 ⑧ 博物館古文書講座「江戸時代の村と公文書」 ⑨ 令和6年度市内小中学校の展覧会の開催予定 ⑩ 令和6年度文化財消防訓練の実施	(博物館長) ⑦は、昨年度初めて開催した講座で、大変好評だったので今年度も開催するもの。透明な容器の中に砂や石、苔を入れて小さな自然の風景を楽しむインテリア「苔テラリウム」を作る。また、学芸員が苔の種類や生態などについても分かりやすく解説する。開催日時・時間・定員等はチラシに記載のとおり。 ⑧は、博物館の古文書解読作業の成果を市民の皆さんに分かりやすくお知らせするために、解読を担当している博物館専門員が講師となり、毎年開催しているもの。今回は、収蔵資料である成岩村(ならわむら)文書(もんじょ)などから、代官所(だいかんしょ)の呼出し命令書、村から村への移転通知書などの文書を取り上げ、古文書の読み解きを通じて、成岩村の人々とお役所とのかかわりなどについて学んでいく。開催日時・時間・定員等はチラシに記載のとおり。 ⑨は、1月10日から2月24日までの間、市内小・中学校の児童生徒による作品展を順次開催するもの。1月10日(金)から1月21日(火)までは、市内小中学校の特別支援学級及び特別支援学校の児童生徒による作品展「第53回半田さわやか教育展」を開催する。1月23日(木)から1月30日(木)までは「半田市小中学校書写展」、2月1日(土)から2月12日(水)までは「第40回半田市中学校美術部展」、2月14日(金)から2月24日(祝)までは、「第40回 半田市造形教育展」を開催する。いずれも児童生徒の力作を展示する。 ⑩は、毎年1月26日の「文化財防火デー」に合わせて実施するもの。これは、昭和24年1月26日に法隆寺金堂が炎上し壁画が焼損したことを受け、定められている。文化財を火災や震災などの災害から守るとともに、全国的に文化財防火運動を展開し、文化財愛護に関する意識の高揚を図るとともに、訓練を通じ、文化財の防火対策について、認識を新たにできる機会となっている。半田市でも、毎年、1月26日前後に、市内重要文化財において消防部局と文化財部局、文化財所有者が連携し訓練を実施している。 今回の訓練は、1月26日(日)午前10時から、成岩の常楽寺にて行われる。
■各課からの事務連絡	(主任指導主事) 令和6年度小中学校卒業式及び幼稚園修了式、令和7年度小中学校入学式及び幼稚園入園式の列席者・時刻について。 今年度、幼稚園の修了式、及び小学校、中学校の卒業式、来年度、幼稚園の入園式、及び小学校、中学校の入学式に対する教育委員のみなさまの列席について、この資料のように対応をお願いする。 また、修了式、卒業式については、教育委員会の告辞がある。告辞文については、改めて定例教育委員会にて提案させていただく。 なお、来年度の入園式及び入学式については、教育委員会告辞はな

	い。
	(学校教育課長) 来年度の給食に関することについて。まだ案の段階で、最終決定したものではないので、その点、あらかじめご了承ください。 現在、半田市では、「働く親を応援するまち」というコンセプトで、様々な施策を展開しているところだが、その一環として、来年度から、終業式の日(1～3学期まで年3回)、給食提供を行いたいと考えている。従来、終業式の日、式終了後、帰宅させていたが、少しでも保護者負担を軽減したいとの思いから始めるもの。 ただし、式終了後の給食という、通常の授業のある日の給食に比べて、1時間ほど早い時間帯で提供することになる。今までも、こういった早給食というのは、学校の事情に応じて度々実施してきたが、全校一斉となると、給食センターでは対応できない。つまり、通常より1時間早い給食提供となると、その準備も1時間早くスタートする必要があるが、調理員等を1時間早く出勤させることが困難であり、また、配送の課題もある。そういった観点から、終業式の日給食は、最小限の調理で可能なものとする必要があり、レトルト食材での対応を考えている。 なお、当初は、始業式の日給食提供も考えていたが、学校の負担等を考慮し、結果として終業式の日のみとしている。また、各学校には、既に内々の打診等はしているが、1月の校長会議で正式な意向確認等を行う予定としている。いずれにしても、現時点は、あくまで案の段階で、学校教育課としては全校で実施していきたいと思っているので、本日ご紹介させていただいた。 (新美委員) 働く親を応援するとの説明があったが、保護者から、終業式の日給食を提供してくれないかという声があったのか、市の方針としてこれをやろうとしているのか。 また、子どもたちに関わることだが、子どもたち自身にも意見を聞いているのか。子どもたちはどう思うのだろうか。そのあたりのことまで含めて総合的に判断したのか。ここに至るまでにどういった経緯があったのか知りたい。 (学校教育課長) 保護者からの要望というより、市の方針としてやっていきたいというところからスタートしている。半田市PTA連絡協議会の役員には意見を伺った。若い世代や、共働きの家庭などにとってはありがたいのではないかと意見をいただいている。一方で、早く帰ってくることを楽しみにしている家庭もあるのではないかと指摘もあった。最終的には、一旦、始めてみたらどうかということで話がまとまった状況である。

子どもたちの意見は確認していない。指導主事の先生方に意見を聞いたところ、もちろん早く帰りたい子もいるだろうが、式が終わってから給食を食べても1時間程度しか変わらないので、強く反対するようなことはないのではとのことだった。

(新美委員)

給食があることで、働く親が、その日に休みを取らずに通常の仕事ができるかという、そうでもないと思う。確かに食事を作る手間は省けるだろうが、これが働く親を助けているのか疑問に思ったので質問した。

(学校教育課長)

おっしゃる通りである。ただ、「働く親を応援するまち」という市としてのコンセプトがあり、その象徴的な取組みとして実施したいというものである。保護者にとって、大きな負担軽減になることはないのだろうが、一食でも給食が多い方が、子育てに対する負担感は和らぐのではないかと考えている。

(新美委員)

今回の取組みは、やはり子どもの意見が抜けていると思う。1回やってみて、子どもたちの反応を見て、それで本格的に実施するか判断してもいいのではないか。

また、レトルトということだが、温かいものが提供できるのか。

(学校教育課長)

レトルトは、給食センターで湯煎してから配送するので、温かいものが提供できる。ごはんも、業者が直接各学校へ温かいものを配送する。

(正村委員)

食べるか持ち帰るか、どちらか選択することはできないか。終業式の日の昼から予定を入れている家庭もあると思う。それを考えると、パンでもいいので全員に配って、食べたい人は残ってくださいという仕組みだといい。

あるいは、防災食が学校にあれば、それを食べる日というのはどうかとも思ったが、1回限りになってしまうか。

(新美委員)

選択させることは難しいのではないか。事前にアンケートをとったり、学校の負担が大きく現実的ではないと思う。

(正村委員)

難しいのであれば、給食が苦手な子にとってみると結構な負担になると思う。多くはないが、そういう子にも出会ってきている。給食が嫌いではなく、みんなの前で食べることにすごく抵抗がある。これまで、食

べなくてよかった日が、食べなければいけない日になるのは負担。確かに、お昼ごはんを用意する時間もなく、お金を置いていくだけにせざるを得ない家庭もあるだろうから、親の負担を軽減させることも大事だと思うが、もう少し子ども目線で考えられなかったのかと思う。本当に辛い思いをしている子どもには、事前に事情を聞いて、食べなくてもいいよう配慮があってもいい。両天秤だと思うので、柔軟な対応ができるような形で始められるといい。

（学校教育課長）

絶対に食べないといけないということではない。個別事情に応じて、配慮ができるようにしたい。

（給食センター所長）

給食については、持ち帰りすることはできない。あらかじめ、この日に食べないということがわかっていれば、出さないということはある。

まず令和7年度は、保護者、働く親を応援するということで、試験的に始めてみて、いろいろなご意見もあるかと思うので、それを受けてまた対応を考えていきたい。

（正村委員）

では、正式に決まったら早めに保護者にも知らせていただきたい。終業式は給食がないと思っている。4月の段階で今年度はこうしていきますと子どもたちと保護者に伝えてもらえるといい。

（新美委員）

給食センターの調理委託をしている事業者に、1時間早く出勤してもらうことはできないのか。年間3日であれば、対応してもらうことができるのではないかな。

（給食センター所長）

調理員は全体で70人いるが、そのうち正社員は10人程度で、残りの60人程度がパート社員。さらに、その中でも8割ぐらいが小・中学校のお子さんのいる保護者である。以前、8時出勤で募集をかけたときには応募が少なく、8時半出勤にして再募集したところ応募が増えたという経緯もある。また、調理委託業者と従業員との契約上も、特定の日だけ時間を早めて出勤してもらうことは難しい。

（新美委員）

子どもたちのことを考えた時に、通知表をもらったら早く帰りたい子が多いと思う。それが、例えば、レトルトではなく、少し豪華な給食を食べられるのであれば、子どもたちも嬉しいのではないかと考えて確認した。

	(桂委員) 賛否両論あるだろうし、メリットとデメリットもある。一部の学校で試行することは考えなかったか。 (学校教育課) 学校教育課としては、全校で始めたい。ただ、一方的に学校に強いることはできないので、校長会議で趣旨を説明し、協力を呼び掛けた上で、意向を確認してから進めたい。 (桂委員) やってみた反応は、改めて吸い上げるのか。 (学校教育課長) 実際に始めてから意見は聞こうと考えているが、どのような手法で実施するかは検討中である。 (桂委員) せっかく働く親を応援するまちとして良かれと思って始める取組みが、やっぱり終業式の給食はないほうがよかったねと言われるのは切ないので、できるだけそうならないよう準備していただきたい。 (教育長) 委員からご意見いただいたように賛否両論あると思うが、できる限り準備した上で一度やってみたい。
教育委員からの 意 見 提 言 等 (1)	(堀崎委員) 1点目は情報提供。半田市児童発達支援センター 半田市立つくし学園が実施する地域支援事業の中で、年4回、講師を招いて講演会を開催している。次回は2月15日(土)の午前中、大会議室にて合理的配慮についての講演会が開催される。可能であれば、各学校4役以上の先生に参加してほしい。学校全体で合理的配慮について捉えて、取り組んでほしい。また、1月19日(日)には、「子どもと親とゲームの上手なつきあい方」をテーマとした講演会もある。私は参加する予定なので、改めて内容は紹介する。 2点目は、卒業式や入学式の来賓の件。コロナ禍で各学校が来賓を呼ばないようになって、それが楽になって呼ばないことが継続しているのではないかと心配している。地域の人にも来てもらって、大勢で祝ってあげたい。幼保小中の連携のためにも、近くの園や学校にも声をかけて、こんなに成長したよと見てもらうのもいい。先生の働き方、効率だけ考えているのではないかと心配している。
(2)	(桂委員) 12月16日に大府市で、市内の保育園や小中学校の教職員向けに包括的性教育の研修を開催したと報道を見て、大府市へ行く機会があった

ので資料をもらってきた。子どもたちに知っていてほしい、身に付けてほしいことがたくさんある。また、子どもだけでなく、先生にも知っておいてほしい。

大府市では、保育園でも子どもたち向けに授業を行ったと聞いた。その様子を YouTube にもアップするかもしれないとのことだった。半田市でも、ベースとしてこの考え方が先生方の頭にあると、性教育の授業としてではなく、人権という視点でもいい話ができるのではないかと思った。

（図書館長）

ボランティア活動をされている市民活動団体の方から、包括的性教育の本があるので、読み聞かせしていただくのはどうですかという相談を受けたことがある。半田図書館にも絵本があり読んでみたが、性教育と聞いてイメージするような直接的な表現ではなく、小学校低学年の子や保育園幼稚園の子からでも読み聞かせを通じて伝えられることがあると思った。なにかあれば、図書館にも情報があるので、活用していただきたい。

（学校教育課長）

幼稚園や保育園でも、そのような内容の絵本の読み聞かせは、幼児教育の一環として既に行っている。

また、包括的性教育に関し最大の課題は、性行為そのものの取扱いである。この点について一部の自治体では学習指導要領には載っていない内容まで踏み込んで教えているよう。半田市でも、プライベートゾーンを守ることや、見せない・触らせないということや、中学校においては男女の付き合い方、避妊具の使い方などは教えている。包括的性教育と呼ぶのかという認識の違いだけだと捉えている。

（桂委員）

それぞれ性教育をピンポイントでやってはいるとは思いますが、それだけでは、やってはいけないことしか伝わらない。包括的性教育の大事なところである、自分って大事だよ、相手も大事だよという根っこの部分から作ってほしい。ポイントだけだと子どもたちの中で繋がっていかないのではないかと心配している。また、性教育に限らず、学習指導要領にあることだけを教えているわけではないだろうから、必要に応じて伝えていくことは大切だと思っている。

（教育長）

重要な問題だと思う。性教育に限らず、子どもたちは様々な情報にさらされている。むしろ学校以外の時間のほうがインターネットなど多くのツールから情報を得られ、学校が制御できるレベルのものではない。そういう意味では、家庭教育、学校教育、社会教育などを総体的な視野で見えていかなければならない時代になっているが、学校の果たすべき役割は必ずあるので、視野を広げていく必要がある。

その他	(教育長) 教育長から教職員向けに出しているメッセージを紹介する。月1回、校務支援ソフトを通じて配信している。今後も機会があれば資料提供させていただく。
次回開催等	(事務局) 1月定例会教育委員会 日時：1月23日(木) 10時00分～ 場所：半田市役所4階 庁議室 (教育長) 12月定例会教育委員会を終了する。

〈 閉会 11時45分 〉